

ETF

Q:ETFとは何ですか

A:ETFとは、Exchange Traded Fundsの略で、上場投資信託と訳されます。株価指数や商品価格など、特定の指標と連動した投資効果を得られるように運用される投資信託で、その名の通り証券取引所に上場され、市場で売買が行われています。

Q:ETFにはどのような種類があるのですか

A:わが国で上場されているETFの中で最も一般的なのは、東証株価指数(TOPIX)や日経平均株価など国内の株価指数と連動するタイプのもので、上場銘柄の大半を占めています。また、米国や中国、新興国など外国の株価指数や債券指数に連動するものや、上場している不動産投資信託(REIT)全体の値動きを反映させた指数に連動するものがあります。さらに金や原油など商品の価格や価格指数に

連動するものもあるなど、ETFの種類は多岐にわたっています。

Q:どのような特徴を持った商品なのですか

A:ETFは証券取引所に上場されているため、取引時間内であれば値動きを確認しながら「いつでも」「何度でも」売買することが可能です。非上場の投資信託の価格決めが1日に一度だけであるために取引が終了した後でなければ正確にいくらで購入や解約をしたかが分からないのとは大きく異なります。

このように、個人投資家が個別株を売買するのと同様に、比較的少ない金額で株式相場全体と同じ値動きをするポートフォリオに投資出来ることや、手軽に不動産や商品関連の投資を行えることがETFの優れている点と考えられます。

その一方で注意すべき点としては、価格変動リスクがあり元本が

保証されていない、一般的な投資信託と違い分配金を自動で元本に組み入れて再投資することができない、などが挙げられます。

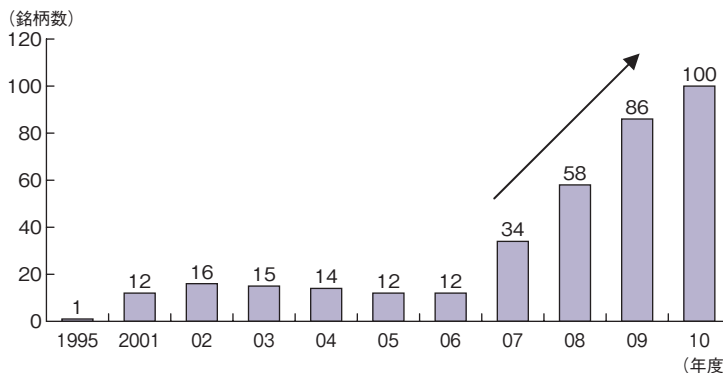
Q:日本のETF市場は今後どうなっていくと考えられますか

A:近年、世界のETF市場は急拡大を遂げています。日本では1995年に国内株価指数連動型のETFが初めて上場されました。その後ETFの原資産を拡充する規制緩和などが行われたことから、徐々に商品の多様化が進んでいます。また最近では、2011年2月に東海地方の主要企業の株価指数を連動対象とした国内初のいわゆる「ご当地ETF」が名古屋証券取引所に上場されるなど、テーマ性を持たせたETFが相次いで上場されています。3月にも、中国で積極的に事業展開を進めている国内企業の株式を投資対象としたETFが東京証券取引所に上場され、これにより同取引所のETFは100銘柄に達しました(図表)。

しかしながら、海外と比べるとわが国のETF市場はまだ規模が小さく、見劣りしているのが現状です。今後は投資家ニーズを捉えた魅力的な商品の提供や認知度の向上により、ETF市場の拡大が期待されます。◻

みずほ総合研究所 金融調査部
 研究員 山村晋介
 shinsuke.yamamura@mizuho-ri.co.jp

●ETF上場銘柄数の推移(東京証券取引所)



(注)年度末の上場銘柄数(2010年度は2011年3月10日まで)。
 (資料)東京証券取引所「ETFスクエア」よりみずほ総合研究所作成